

(様式)

令和5年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立自由が丘中学校
-----	-------------

1 学校教育目標

「主体的に学び ころ豊かで 自立する 生徒の育成」 <校訓> 自尊 共生 創造 ~Let's step up together~
--

2 本年度の重点目標

(1) 目標に向かって最大限努力し自己実現をめざす生徒の育成 : 自己有用感を高める教育の推進
(2) 心豊かで命を大切にす生徒の育成 : 道徳教育・人権教育・安全教育・防災教育等の充実
(3) 教職員の指導力・資質の向上 : わかる授業の実践、規律あるあたたかい学級づくり、人間性・社会性の向上
(4) 地域から愛され信頼される学校 : 地域との連携、学校からの情報発信

3 自己評価結果(達成状況) 【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導	①未来を創る学力育成三木モデルの目指す授業づくり(「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実) ②基礎・基本の定着を図る指導の充実 ③タブレットを活用した学習習慣の確立	①1学期に先進校を視察し、取り組むべき方向性を確認した。2学期には、市教委の連携協力校として、授業公開を実施した。3学期は、教職員全員参加の講義型の校内研修会を実施し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について研修を深めた。 ②③6時間目終了後に実施している「学習タイム」では、タブレットを活用したドリルが完全に定着している。	B	①「個別最適な学び」「協働的な学び」に向けた授業改善研修をさらに進める。校内での授業公開の機会の増加 ②③基礎・基本の定着、学習習慣の確立をめざしたA Iドリル活用継続 ③授業のオンライン配信の継続実施
生徒指導	①生徒理解に基づいた指導の充実 ②不登校・要支援生徒への指導の充実(三木市不登校対策アクションプランの実践) ③サポート教室の効果的運営 ④生徒指導及び不登校対策委員会の定例開催 ⑤生徒会活動と連携した取組の充実	①②③SSW・SC、不登校対策指導員と連携を回り、生徒理解に基づいた寄り添う指導を行った。サポート教室は、不登校対策支援員、不登校担当、担任、各時間担当と密な連携のもと運営することができ、成果も得た。 ④生徒指導(金5)、不登校(金2)委員会を定例で開催し、対応協議、情報を共有し指導を行った。また、講師招聘研修を実施した。 ⑤生徒会と連携し、たくさんの項目で校則を見直し、年度内に変更を実施した。	A	①発達支持型生徒指導の推進 ②SSW・SC、不登校対策指導員、みっきいルーム等の関係機関と連携し、生徒理解に基づいた寄り添う指導の継続実施 ②③④サポート教室の運営方法と情報共有の方法の改善 ⑤生徒会活動と連携した校則等の見直しの継続
安全教育 防災教育	①安全教育の充実 ②感染症対策の徹底 ③防災教育(防災訓練・研修会)の推進 ④危機管理研修による対応力の向上	①②日々の感染症対策に加え、感染が流行した際には市教委・校医・PTA会長とも連携を回り、迅速に学校閉鎖等の措置をとった。メリハリのある対策がとれた。 ③④防災訓練・教職員の初動体制確立訓練、保護者への引き渡し訓練を実施した。AED・心肺蘇生、熱中症、食物アレルギー等の職員研修を実施し、意識の対応力を図った。	A	①②③今後の感染症対策の変更、社会情勢の変化に応じた柔軟な対応強化 ④教職員の指導力・対応能力の向上を図るための危機管理研修を継続実施
道徳教育 人権教育	①道徳教育の充実 ②年間指導計画に基づいた指導の徹底 ③新たな人権課題への取組の充実 ④職員研修・授業研究会の実施	①④全体研修は実施しなかったが、各学年団で行う身に研修を行った。 ②年間指導計画に基づいた指導を行った。 ③ジェンダー教育をはじめ様々な人権課題に前向きに取り組む、人権を大切に取組を行った。	B	①④指導力の向上をめざした道徳の授業研究の実施方法の検討改善 ①ローテーション道徳の継続実施 ②指導計画に基づいた指導と授業時数の確保 ③新たな人権課題に関する研修の推進継続
特別支援教育	①支援を要する生徒の理解と指導の充実 ②学校生活支援教員・SC・SSWとの連携強化 ③幼小中連携による職員研修の実施	①②定期的な特別支援教育委員会を開催すると同時に、職員会議でも情報を共有し、指導の充実に生かした。特別支援教育指導補助員との情報共有も確実に行っている。 ③小中一貫教育の意味合いから、小中3校の担当全員で情報の共有、今後に必要なことについて研修した。	B	①②学校生活支援教員や特別支援教育指導補助員と連携を深め、個に応じた必要かつ効果的な支援を継続実施 ①校内委員会を定期開催し、支援内容や体制の見直しを行い共通理解を図った取組を推進 ③小中の情報共有の方法改善
家庭・地域との連携	①通信や情報機器を活用した情報発信 ②感染症対策を踏まえた学校公開の工夫 ③コロナ禍における地域との連携の工夫	①昨年度よりホームページの更新回数は増加した。すぐるによる限定的な写真公開の案も出ており、来年度への課題である。今年度も、トライやる関連で、事業所募集の情報発信を実施した。 ②ポストコロナの行事の実施について協議し、対策を講じながら、実施することができた。夏祭りや、地域防災、地域行事へ、数多くの生徒が参加した。	B	①ホームページや各種通信等の発行による情報発信の継続 ②③地域とともにある学校としての学校行事の開催や生徒の地域行事への積極的参加の継続
教職員の育成	①教職員による自主研修会の実施 ②職員の能力を発揮させる職場環境づくり ③OJTを活用した実践的指導力の向上 ④小中一貫教育推進に向けた教職員の交流	①②生徒指導、授業改善にむけ、大学教授を招聘し講義型の研修会を実施した。研修会の時間設定を含めた実施方法について、ある程度確立することができた。 ④小中一貫教育の推進に向け、昨年度に引き続き、先進校の学校長を招き、合同研修会を実施することができた。	B	①未来を創る学力育成三木モデルの目指す授業改善の継続実施 ②③④自校だけでなく小中の教員間でも意見交流が活発に行われるなど、教職員が刺激し合い切磋琢磨しながら指導力の向上を図れる職場環境づくり 教科寄り合いの実施

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> ・目標や取り組み内容、達成状況がとても分かりやすい。 ・今年度は夏祭り等、地域のイベントにも参加でき、地域の方々やPTAとも連携がとれて良かった。 ・時代の流れや子どもたちの生活、気持ちに寄り添い校則の見直しやサポート教室など臨機応変の対応がすばらしいと思った。 ・評価項目に対する取組、改善方策等細かく分類され分かりやすく理解が深まりました。先生方の細やかな対応に好感が持てて評価できる。 ・学校評価も概ね目標を達成できており、素晴らしいと思います。
--

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導はBが妥当である。 ・学習タイムでのドリルの活用は評価大、継続はかなり、生徒たちの成績向上レベルアップが見受けられるようになれば来期はA評価。 ・先進校の視察や授業公開、校内研修など、三木モデルの目指す授業づくりを実現しようと努力している。 ・基礎、基本の定着とタブレットの活用で基礎学力の向上に努力している。 ・A Iドリルの活用やオンライン授業を継続し、生徒の学習向上を望む。
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導はAが妥当である。 ・不登校対策指導員や先生方の協力の元、サポート教室を上手に運営出来ている。 ・校則の見直しをはかり、生徒たちの意見を取り入れ、変更を実施したことも評価できる。しかし、指導する側の寄り添う事の「さじ加減、常識、モラル」のコントロールは大切かと。 ・生徒に寄り添う指導の継続は評価できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育、防災教育は、Aが妥当である。 ・感染症対策の変更等では流関係部署と連携を回り一早く対応し、迅速な措置を行った。 ・校内の危険箇所を見つけ、適切な対応を行い、危機管理対応能力の向上が図られている。 ・先生方の取組、生徒たちの訓練参加などは評価できる。しかし特に防災に関して、私たち大人も含めて危機感という点ではクエスションがつく。危機感の共有が大切かと。
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育、人権教育はBが妥当である。 ・ジェンダー教育を含めた人権課題に前向きに取り組んだことは評価できる。 ・年間指導計画に基づいた指導が行えている。 ・毎年2月に公民館で開催される自由が丘人権研修の折にも素晴らしい人権発表ができています。
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育はBが妥当である。 ・小中一貫教育に向けて、自由が丘中学校区3校(自由小、自由が丘東小、自由が丘中)での情報共有は重要である。今後も密な連携を願う。
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域との連携はBが妥当である。 ・ホームページや「すぐる」等の発行による情報発信の継続がなされていて良かった。 ・夏祭りなど生徒の地域行事への参加で家庭や地域との連携が取れてよかった。 ・新型コロナ禍が開けても感染症対策を実施しながら地域活動へ協力的に参加を促していただいている。 ・新型コロナもかなり落ち着いてきたようで、自治会行事、トライやるなど積極的な参加を望みます。一方地域側の受入体制や実践でより楽しく体験、学べる仕組み作りを図る我々の課題は重要と認識しています。 ・今年度は、各行事にも参加させていただいた。「ホームページ」や「すぐる」の更新充実をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の育成評価Bは妥当である。 ・大学教授を招聘し研修会を実施する等、生徒指導、授業改善のための時間を持つことができていたのが良かったと思う。 ・生徒指導、授業改善または小中一貫教育に向けた研修会を積極的に実施されていることは評価できる。加えて個々の先生方の魅力や優しさ、強みを引き出す人間力を高める研修や勉強会があれば最高です。 ・小中一貫教育の推進に向け合同研修会を実施している。 ・引き続き、未来を創る学力育成三木モデルの継続をお願いしたい。